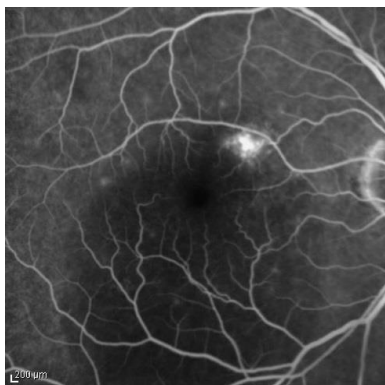
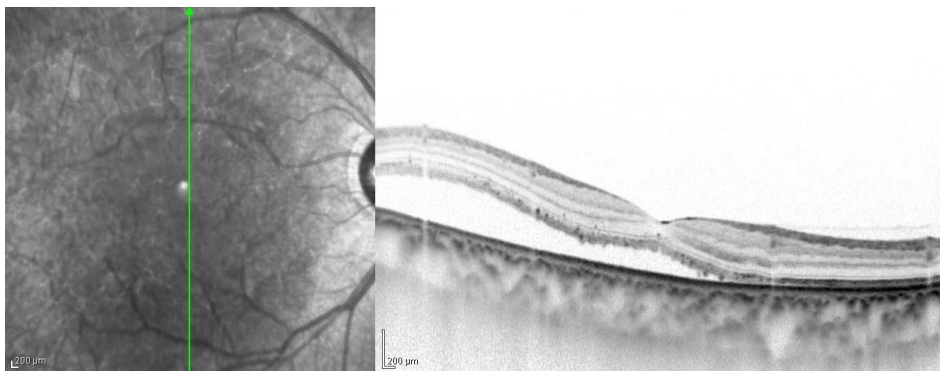


病気の説明： 中心性漿液性脈絡網膜症について

- 眼底にある網膜のさらに奥には、脈絡膜という血管でできたスポンジの様な膜があります。通常は、脈絡膜と網膜の間には網膜色素上皮という防水シートのようなものがあるため、脈絡膜の血液の血漿成分は網膜側に移動しません。
- しかし、ストレスなどによる影響で網膜色素上皮が傷んだり、元々脈絡膜が厚い眼において、何らかの機会に脈絡膜の水分が網膜色素上皮を乗り越えて漏れてしまうと、網膜の下に水が溜まった状態になってしまふことがあります。
- この病気で失明することは殆どなく、病気が始まってから間もない頃は視力も殆ど変わりませんが、物がゆがんで見えるようになったり、視界の中央が黄色っぽく見えるようになります。そして治らないまま半年から数年と長期にわたると、徐々に視力が低下していく可能性があります。
- まずは網膜の循環改善剤などお薬を飲んで様子を見て、それで治らなければ眼底にレーザーを当てるといふ治療法があります。そのためにはまず、蛍光眼底造影という特殊な検査をして、網膜の下に水が漏れ出している箇所を特定します。それで漏れている箇所が網膜の中央から十分離れているようなら、通常のレーザーで治療可能です。逆に漏れている箇所が網膜の中央に近いなら、通常のレーザーを撃つと視力が下がる恐れがあるため、別の特殊なレーザー治療を検討する場合があります。

◇ 中心性漿液性脈絡網膜症の眼底画像



蛍光眼底造影